

	乳がん検診			
	検査項目	対象年齢	受診間隔	受診率※1
日本	マンモグラフィ	40歳以上（～69歳）	2年に1回	44.6% (2019)
英国	マンモグラフィ	50～70歳	3年に1回	74.2% (2020)
フランス	マンモグラフィ※2	50～74歳	2年に1回	70.0% (2019)
ドイツ	マンモグラフィ	50～69歳	2年に1回	65.7% (2019)
オランダ	マンモグラフィ	50～75歳	2年に1回	77.1% (2019)
フィンランド	マンモグラフィ	50～69歳	2年に1回	77.1% (2019)
オーストラリア	マンモグラフィ	50～74歳※3	2年に1回	49.5% (2020)
ニュージーランド	マンモグラフィ	45～69歳	2年に1回	63.3% (2020)
韓国	マンモグラフィ	40歳以上	2年に1回	65.9% (2020)
アメリカ※4	マンモグラフィ	50～74歳※5	2年に1回	76.5% (2019)

※1 がん検診受診率は、OECD Health Statistics 2022 <https://www.oecd.org/health/health-data.htm>

※2 個人または家族の病歴、または遺伝的素因を持つ女性は「ハイリスク」であり、国の検診プログラムの対象とならず、早期発見のための別の方法（医療での経過観察）が提供される。また、25歳以降は少なくとも1年に1回、視触診を受けることが推奨される。

※3 40～49歳、75歳以上の場合でも、無料でマンモグラフィを受検可能。（受診案内は届かない）

※4 加入保険により対象者、受診間隔は異なる。示しているのはUSPSTF（U.S. Preventive Services Task Force）の推奨。

※5 2023年7月より子宮頸部細胞診からHPV検査に変更予定。

【出典】

OECD Health Statistics 2022 <https://www.oecd.org/health/health-data.htm>

日本 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html> 英国 <https://www.gov.uk/topic/population-screening-programmes>

フランス <https://www.e-cancer.fr/Comprendre-prevenir-depister/Se-faire-depister> ドイツ <https://www.bundesgesundheitsministerium.de/krebsfrueherkennung.html>

オランダ <https://www.bevolkingsonderzoeknederland.nl/> フィンランド <https://thl.fi/fi/web/kansantaudit/syopa/syopaseulonnat>

オーストラリア <https://www.health.gov.au/topics/cancer/screening-for-cancer>

ニュージーランド <https://www.cancer.org.nz/cancer/find-cancer-earlier/screening-and-early-detection/>

韓国 https://www.mohw.go.kr/react/policy/index.jsp?PAR_MENU_ID=06&MENU_ID=06300103&PAGE=3&topTitle=

アメリカ <https://www.cdc.gov/cancer/dcpc/prevention/screening.htm>

厚生労働省により仮訳しまとめたものであり、英文と齟齬がある場合は英文を優先すること。

	子宮頸がん検診			
	検査項目	対象年齢	受診間隔	受診率※1
日本	子宮頸部細胞診	20歳以上(～69歳)	2年に1回	43.7%(2019)
英国	HPV検査	25～49歳	3年に1回	74.0%(2020)
		50～64歳	5年に1回	
フランス	子宮頸部細胞診	25～29歳	毎年(最初の2回) 3年に1回	76.3%(2019)
	HPV検査	30～65歳	5年に1回	
ドイツ	子宮頸部細胞診	20～34歳	毎年	77.9%(2019)
	併用法※2	35歳以上	3年に1回	
オランダ	HPV検査※3	30～39歳	5年に1回	60.0%(2019)
		40～60歳	10年に1回	
フィンランド	子宮頸部細胞診/HPV検査	30～65歳	5年に1回	71.3%(2019)
オーストラリア	HPV検査※3	25～74歳	5年に1回	55.7%(2019)
ニュージーランド	HPV検査※3、4	25歳以上	5年に1回	68.4%(2021)
韓国	子宮頸部細胞診	20歳以上	2年に1回	51.7%(2020)
アメリカ※5	子宮頸部細胞診	21～65歳	3年に1回	72.6%(2019)
	HPV検査/併用法※3	30～65歳	5年に1回	

※1 がん検診受診率は、OECD Health Statistics 2022 <https://www.oecd.org/health/health-data.htm>

※2 HPV検査と子宮頸部細胞診を併用する方法。 ※3 自己採取を選択することが可能。

※4 2023年7月より子宮頸部細胞診からHPV検査に変更予定。

※5 加入保険により対象者、受診間隔は異なる。示しているのはUSPSTF (U.S. Preventive Services Task Force) の推奨。

【出典】

OECD Health Statistics 2022 <https://www.oecd.org/health/health-data.htm>

日本 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html> 英国 <https://www.gov.uk/topic/population-screening-programmes>

フランス <https://www.e-cancer.fr/Comprendre-prevenir-depister/Se-faire-depister> ドイツ <https://www.bundesgesundheitsministerium.de/krebsfrueherkennung.html>

オランダ <https://www.bevolkingsonderzoekenederland.nl/> フィンランド <https://thl.fi/fi/web/kansantaudit/syopa/syopaseulonnat>

オーストラリア <https://www.health.gov.au/topics/cancer/screening-for-cancer>

ニュージーランド <https://www.cancer.org.nz/cancer/find-cancer-earlier/screening-and-early-detection/>

韓国 https://www.mohw.go.kr/react/policy/index.jsp?PAR_MENU_ID=06&MENU_ID=06300103&PAGE=3&topTitle=

アメリカ <https://www.cdc.gov/cancer/dcpc/prevention/screening.htm>

厚生労働省により仮訳しまとめたものであり、英文と齟齬がある場合は英文を優先すること。

	大腸がん検診				組織型検診の実施※2
	検査項目	対象年齢	受診間隔	受診率※1	
日本	便潜血検査(免疫法)	40歳以上 (~69歳)	毎年	44.2%(2019)	×
英国	便潜血検査(免疫法)	50~74歳※3	2年に1回	—	○
フランス	便潜血検査(免疫法)	50~74歳	2年に1回	37.1%(2019)	○
ドイツ	便潜血検査(免疫法)	50~54歳	毎年	61.0%(2019)	○
		55歳以上	2年に1回 全大腸内視鏡検査の代替		
	全大腸内視鏡検査	男性 50歳以上	10年に1回		
		女性 55歳以上	10年に1回		
オランダ	便潜血検査(免疫法)	55~75歳	2年に1回	71.6%(2020)	○
フィンランド	便潜血検査(免疫法)	60~69歳※4	2年に1回	79.1%(2020)	○
オーストラリア	便潜血検査(免疫法)	50~74歳	2年に1回	43.5%(2019)	○
ニュージーランド	便潜血検査(免疫法)	60~74歳	2年に1回	—	○
韓国	便潜血検査(免疫法)	50歳以上	毎年	64.8%(2020)	○
アメリカ※5	便潜血検査(化学法、免疫法)	45~75歳	毎年	67.5%(2019)	×
	S状結腸鏡		5年に1回 便潜血を毎年実施する場合は10年に1回		
	全大腸内視鏡		10年に1回		
	CTコロノグラフィ		5年に1回		

※1 がん検診受診率は、OECD Health Statistics 2022 (<https://www.oecd.org/health/health-data.htm>) より引用。複数の検診手法が行われている場合、受診率はそれらをまとめたものであり、個々の検診手法の受診率は公開されていない。

※2 OECD Health Statistics 2022 においてprogramme dataを公表している国を組織型検診実施国としている。

※3 2021年4月より対象年齢を60歳から50歳に引き下げた(4年間かけて段階的に引き下げ)。S状結腸鏡検査は提供されなくなった。

※4 2019年より開始され、段階的に拡大し、2031年には56~74歳になる予定。

※5 加入保険により対象者、受診間隔は異なる。示しているのはUSPSTF(U.S. Preventive Services Task Force)の推奨。

厚生労働省により仮訳しまとめたものであり、英文と齟齬がある場合は英文を優先すること。出典については別ページを参照すること。

OECD Health Statistics 2022 <https://www.oecd.org/health/health-data.htm>

日本 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>

英国 <https://www.gov.uk/topic/population-screening-programmes>

フランス <https://www.e-cancer.fr/Comprendre-prevenir-depister/Se-faire-depister>

ドイツ <https://www.bundesgesundheitsministerium.de/krebsfrueherkennung.html>

オランダ <https://www.bevolkingsonderzoeknederland.nl/>

フィンランド <https://thl.fi/fi/web/kansantaudit/syopa/syopaseulonnat>

オーストラリア <https://www.health.gov.au/topics/cancer/screening-for-cancer>

ニュージーランド <https://www.cancer.org.nz/cancer/find-cancer-earlier/screening-and-early-detection/>

韓国 https://www.mohw.go.kr/react/policy/index.jsp?PAR_MENU_ID=06&MENU_ID=06300103&PAGE=3&topTitle=

アメリカ <https://www.cdc.gov/cancer/dcpc/prevention/screening.htm>